



まちづくり情報特派員特集

地域のちから

自治会は住みよいまちづくりをめざして地域で活動しています

昨年4月に自治活動応援課が新設されたことに伴い、まちづくり情報特派員が自治活動と協働のまちづくりについて、町長にインタビューをし、8月号に掲載しました。その中で、町長は地域の特色を活かした自治会発の個性豊かな活動を期待していました。

開成町には13の自治会があります。それぞれの自治会でどのような活動や取り組みをしているのか情報特派員が取材し、自治会長連絡協議会の小澤会長と高木副会長のお二人に伺いました。



小澤会長

情報特派員
どのような思いで自治会活動に取り組みられていますか？

小澤会長

開成町には13の自治会がありますが、それぞれ地域のニーズに合った取り組みをしています。良い点は自分たちの自治会に合うようにうまく取り入れながら共有化していると思っています。

たとえば自治会発の取り組みとして「自治会活動サポート証書」があります。町中自治会から始まった「自治会活動サポート証書」の発行は、夏祭りの手伝いや防災訓練、清掃活動など、自治会行事の手伝いや地域活動に参加した中学生に発行されるものです。子どもたちが積極的に地域とかわるきつかけとなり、地域の活性化につながればとの思いから考案されました。

たのですが、訓練をやっていたので、訓練をやっていたのでよかったことです。

また、開成南小学校の開校に伴い、新しい通学路の登下校時の見守りをはじめました。みどりパトロール隊を中心に100名以上の方々が、見守り活動に協力してくれたことがうれしかったです。

高木副会長

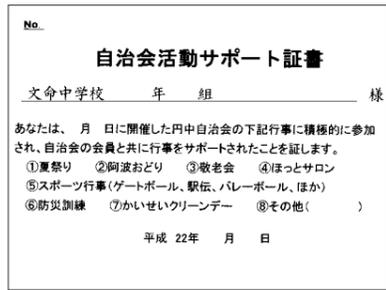
榎本自治会でも1日と15日の登校時間に小学生の安全指導を行っていました。それを子ども会の会長と話をして5日と25日にも実施するなど安全指導の日を増やし、活動範囲をひろげました。小さな自治会なのでやりくりが難しいところもありますが、小さい自治会は小さいなりに工夫しながら取り組んでいます。

情報特派員

最後にお二人は「地域にはそれぞれいろいろな課題がありますが、個々に発生している課題を一步でも二歩でも改善していけたらと思います」と話してくださいました。

キャッチフレーズは
ふれあい・
しりあい・
たすけあい

今ではモデル的な取り組みとして認知され、町内全自治会で発行されています。その成果が地域活動に多くの子どもたちが参加する光景が見られるようになりました。



自治会活動サポート証書

中家村自治会では中学生による初めての消火栓訓練を実施したところ、39名も参加してくれました。そのとき参加してくれた中学生全員にサポート証を発行しました。その他にも中家村自治会では約80枚のサポート証を既に発行しています。

中家村自治会では「ふれあい・しりあい・たすけあい」をキャッチフレーズに、そして「小さな子どもから高齢者まで一緒になって活動している」と取り組んでいます。阿波おどりのみどり連がひとつの現れで、子どもたちも阿波おどりに積極的に参加しています。

自治会の行事には、一人でも多くの人に参加することを目標に、PRが足りなければPRをして参加を促すようにしています。



高木副会長

高木副会長

榎本自治会の子どもの数が少ないため、行事に子どもがなかなか集まりません。それがあるとき中学生がゲートボール大会に参加することになり、お年寄りと一緒に練習するようにになりました。これがきっかけで子どもたちが夏祭りにも参加してくれるようになりました。子どもとお年寄りのコミュニケーションがう

情報特派員

活動を通してよかったできごとは？

小澤会長

中家村自治会では取り組みのひとつとして年に2回消火

栓訓練を実施しています。ある日、地域で火災が発生し119番したのですが、消防車が到着する前に近所の人たちが協力して消火活動にあたり、主屋に火が移ることなく小屋が燃えただけで済んだことがありました。その場所がたまたま前年に訓練した場所でした。毎年同じことをしていて飽きないかと思ってい

みどりパトロール隊の見守り活動

